

平成 28 年度家族向け失語症講座報告(西部地区)

実施日時： 平成 28 年 9 月 11 日 場所：クリエート浜松 2F 会議室

参加受講者：患者御本人 2 名 患者家族 2 名 事業所職員 5 名 学生 1 名 計 10 名

参加会員： 8 名

進行 全体講義（講師 水野） 座談会（3 グループ 途中グループ移動あり）

座談会議事録 A グループ

A 様：お父様（70 代）が失語症になってしまった方の息子様。週に一度リハビリのための送迎などをおこなっている。お母様が精神的な落ち込みと体調不良あり、そこからイライラへとつながってしまっている。

- ・ADL は自立されており、犬の散歩やゴミ捨てにも自分でいかれる。
- ・元々は何も話せなかった。言葉がでず、怒りやすく記憶も定着しない。現在も覚えていないこともあり、奥様はそれに対してイライラしてしまうことが多々ある。
- ・（言葉の状況に対して自覚はあるか）：考えると言葉が出てこなくなってきたため、考えることが嫌になってしまっている。
- ・お母様自体も感情のコントロールが難しく、整理ができていない。

B 様：旦那様（70 代）が交通事故により失語症になってしまった方の奥様。現在も入院中。脳出血の既往あり。今まで失語症を知らなかった。手足のまひは見られておらず、言葉の困難のみ。

- ・英語のような言葉がでており、日本語にはなっていない。攻撃的な言葉が多い。
- ・少しは良くなってきているが、本人の自宅退院への希望が強い。回復期病院へ転院することが決まっているが本人のモチベーションが低くなってしまわないかと心配。
- ・意志が強いので、回復期病院へ行っても嫌がってしまったらこれからどうなるのかと心配。
- ・自宅に帰っても、気に食わないことがあるとすぐに出て行ってしまわないかと心配。
- ・（言葉に対する自覚）：怒りやすく、周りがバカにしているという。感情のコントロールが難しい。
- ST→3 か月くらいは回復が緩やかになり、ご本人の気分も落ち込みやすい。ご家族は疲れてしまいやすい。
- ・（高次脳機能障害）：元々は温厚。性格の変化あり。現在は抑制が効かないところ多々あり、「バカヤロー」という。家で一人ではおいておけないと考えており、今後デイサービスの利用も検討している。
- ・奥様のことを詐欺師という。特に帰り際にいう。

ST→帰りたい希望が強いことや、言葉の選択誤りということも考えられる。

- ・お友達に回復期病院へ行ってよくなって帰ってきている人がいるため、そのことを話して頑張ろうというときの時は良いと。
- ・自分のほうからいうのではなく、なるべく聞くようにすることで話をしてもらおうようにしている。
- ・症状が良い時と悪い時がある。大体は談話室で新聞などを読んでいるときが多いが、昨日はベッドで寝ていたと。ST→リハビリをすることで疲れてしまうこともある。
- ・ご飯は食べこぼしもなく箸でスムーズに食べることも可能。だからこそストレスが溜まるのだと思う。
- ・お見舞いに来てくれた人に対しては特に拒否などはない。
- ・今後は目標をもって欲しい。ST→目標もだが、役割を持つこともすごく良いこと

C 様：失語症ご本人様。現在も外来リハビリ通院中。昨年脳梗塞発症。ST の先生は優しくてよかった。初めての先生は怖かった。特に計算ができなかった。

- ・急性期の回復は早いが停滞期が 6 か月後にある。
- ・感情的にはなりやすい。イライラしたり、突然笑えて来たりする。
- ・現在は休職中。来年から復職予定。そのために現在職業訓練中。月に一度会社へ顔を見せに行く。
- ・元々さまざまな業務を行ってきた、話すことが武器だった。
- ・スケジュール管理は自分で行えている。
- ・車の運転はできない。許可が下りなかった。厳しかった。現在の主な交通手段はバスだが、お金はバカにならない。

D 様：デイケアのスタッフの方

- ・最高 10 名で行っている。曜日によっては空きがないところもあり。
- ・40～60 代の人が基本的に対象。
- ・長い期間つながっていることが可能。
- ・送迎も行っている。

座談会議事録 B グループ

当事者 C 様

復職に向け、外来での言語リハビリ継続中。今回は担当 ST からの紹介で参加された。

<相談内容>

C 様：病前と同じ仕事を行うことは難しいと感じており、今後は仕事内容を変更しての復職予定となっている。職場スタッフも言語障害について理解してくれているが、復職後のイメージがつかず不安がある。怖い。

ココアン様：復職後、病前の自分と今の自分との違いがより鮮明に見えてくることもあるため、ストレスに感じてしまう方も多い。しかし、職場のサポートを得られることで、その方らしく仕事を継続している方を経験したことがある。スタッフの理解を得られることはとても心強い。

当事者 E 様

退職後に発症され、現在は訪問にて言語リハビリ継続中。今回は担当 ST からの紹介で参加された。

<E 様の生活の様子>

- ・リハビリは週に 1 回行っている。リハビリの無い日には、畑やソフトボールなど外での活動を積極的に行っている。
- ・ソフトボールの仲間は、病前より関係のあった方々で、言語症状についてよく理解してくださっている。
- ・家ではアイロンがけなど手伝いも行っている。

ココアン様より：外に出て活動されていることはとても良いことである。家での役割もあることで自信を持つことができる。今まで仕事を続けてこられた男性は特に、定年後も畑など年中役割があることは大切である。

座談会議事録 Cグループ

E 様(失語症当事者);坂の上病院 かねた先生の紹介で来た。遠州病院に入院その後坂の上病院へ通院している。3~4年前から通っているとのこと。最初の頃はことばの理解も発話も難しかった。趣味は野球。40歳頃からチームに所属して行っている。

ことばに障がいがあるがどのような気持ちの変化があり、野球へまた参加したのか聞くと「わからないけどできた」とのこと。

A 様(お父様が失語症者);現在浜松医大で通院リハビリ行っている。計算やカレンダーなどのプリント課題。ちょっとしたことで起こる、すぐに忘れてしまう、自分から何もやりたがらないことが困っている。(お話を聞く限りでは日常のコミュニケーションにはそれほど不便さは感じていらっしやらない様子)。妻は短期で怒りやすい、買い物などに一緒にいてほしいが一緒に行けない。今後医療保険が切れて浜医でのリハビリが終了してしまう。介護保険になるがデイなどはSTが少ない、できればSTのいるところに行きたいと思いつけているとのこと。

ココアン職員様;職場復帰を目標にサポートしている。失語症の患者様もいらっしやる。職場に戻っても週1くらいで顔を見せに来てくれたりする。パソコンなどの事務作業を行っている。周囲がやっているとそれを見て自分もやらなくちゃと思ってやっている。自分で取り組めない人にはサポートを行っている。机上課題だけではなく運動を取り入れたりメリハリをつけて行っている。

<スタッフ反省会>

グループ座談会のまとめ

- ・発症3カ月と発症10日のご家族同士、だんだんよくなっているんじゃないかと声掛けがあった。
- ・ココアンさんの話を聞いてよかった

各個人の反省

- ・受講者が少なかった。広報がうまくいっていない。グループ座談会は盛り上がっていた。
- ・初めて会計を行った。書類の書き方でばたばたしてしまった。
- ・学生の頃には家族向け講座に参加していたがSTの立場として今回初めて参加した。ココアンさんの話など貴重な話が聞いてよかった。
- ・受講者さんが少なく、かつ発症間もない人が多かった。発症して長い人の話を発症間もない家族にできたらよかった。
- ・広報時に講座メインだと思ってしまった。座談会の話をもっと出して参加の募集をかければよかったのではな
- いか。
- ・案内はもっと早くがよかった。